

価値創造思考ツール 「GCC9BOX™」とは？

2024年6月

JPR

Independent Research & Advisory

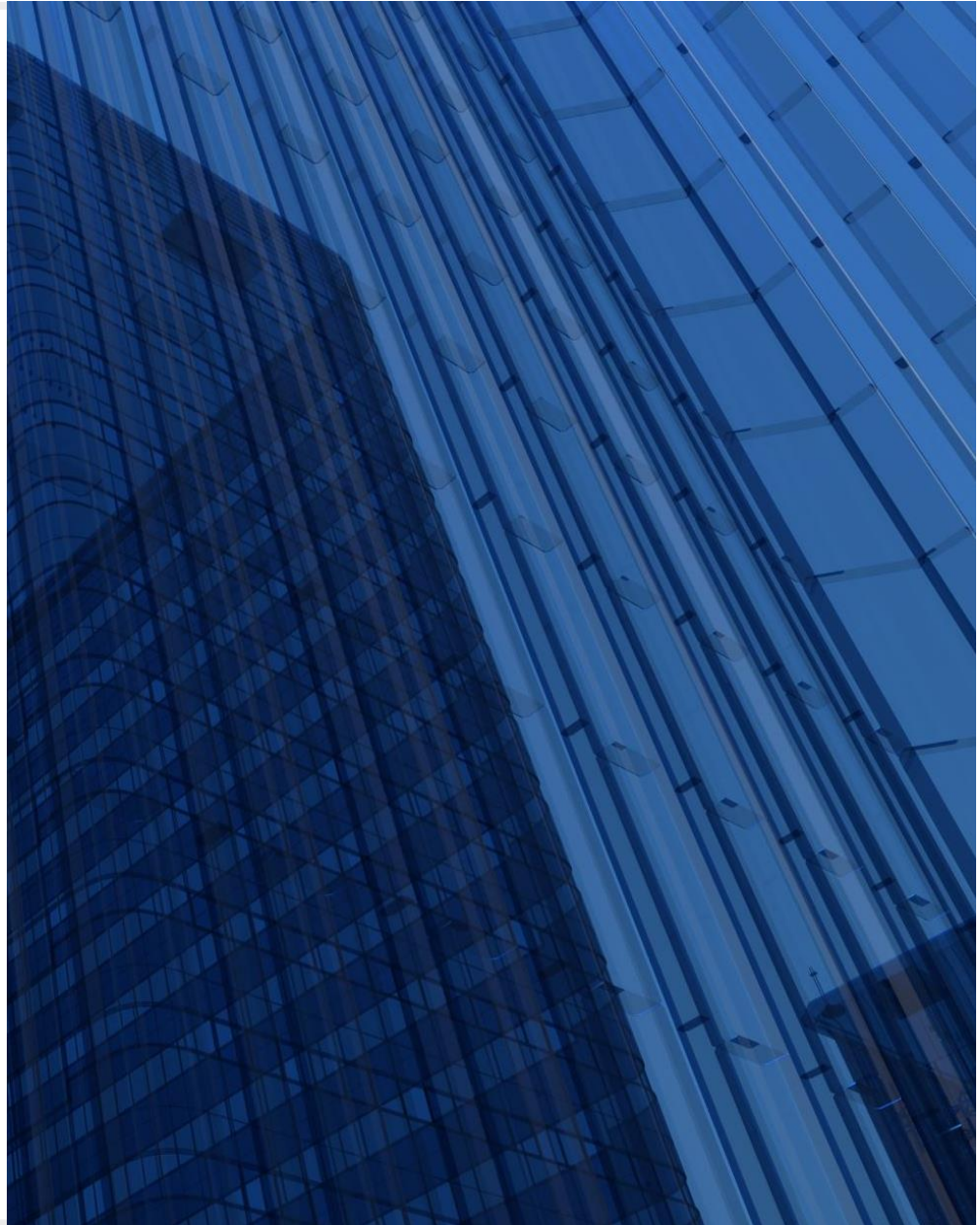
ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社

01. GCC 9 BOX™とは？

02. GCC 9 BOX™を学ぶ意義

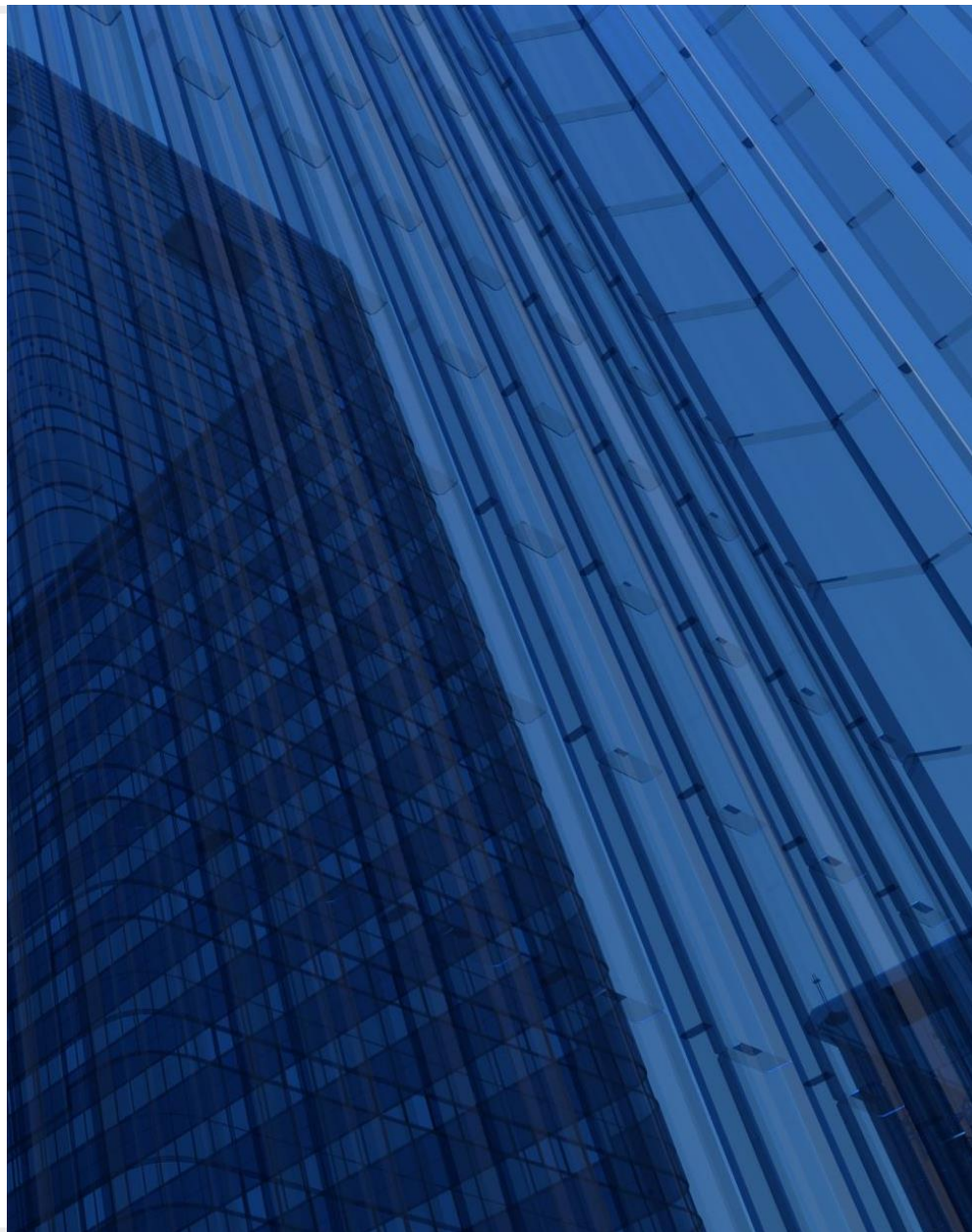
03. GCCの成功事例

04. JPRとは？



01.

GCC 9 BOX™ **とは？**



GCC 9 BOX™とは？

仕事や、事業の

投資価値

(企業価値・株主価値)

の算出支援エクセルシート

JPRはGCC9BOXで研修事業を展開

JPRでは証券アナリストレポートの分析ツールとして利用

わずか **3 時間** の研修で社員を **自己意識の高い「プロ社員 & ミニ社長」** に変貌させませんか？

3 時間の研修の意義と概要

- AIの進化で、すべての社員が世界を相手に自己意識の高い「プロ社員 & ミニ社長」になることが求められています。
- そのためには、一人一人が仕事や事業について自主的に価値を定量化して、客観的に金額で示してコミュニケーションする能力が求められます。
- 3 時間の研修で、誰もがそれが可能になる、JPRオリジナル「GCC 9 BOX™※」(エクセルシートA4・2ページ) の作成の指導します。
- スコア化する喜びで仕事を「ゲーム化」し、社員がワクワクして計算できるように創業20年超の経験に基づく創意工夫で和気あいあいと楽しく研修。
- 研修参加者は、JPRのアフターケアもあり、「GCC 9 BOX™」を自由自在に活用し、価値をワクワクしながら定量化するノウハウを取得し翌日から実践へ。

※ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社（以下「JPR」）が開発した、ノーベル経済学賞受賞のモリアーノ・ミラー教授が確立した企業価値の理論（MM理論）に基づいたフレームワーク、Growth(売上成長)、Connection（人・事業のつながりの改善＝資本の利益率向上）、Confidence（信頼向上＝事業リスク低下、資本コストの低下）の3要素を重視する「GCC経営™」の視点で作成されている。実際にこれらのノウハウを使って証券アナリストレポートを作成してグローバルに配信（https://www.j-phenix.com/reportlist/）、GCC経営™の詳細は、「https://j-phenix-research.notion.site/ROIC-2ee078955fca45bfb5791f6aed365a8a」を参照。

こんなニーズに最適

- 社員一人一人が、長期的な視点で、社長的な発想で、売上高のみならず、コスト構造、バランスシートの発想、10年ビジョン、リスクなどを総合的にワクワクし、自主的かつ理論的に適切に判断し数字で考えてもらいたい。
- 多様な事業・新規事業の価値に定量化して同じ形式で簡単に多様な価値観を持つ社員を巻き込んで共有言語で比較したい。
- 上場企業、上場を目指す企業で、社員が一丸となって定量的に価値創造のデータを作り、それを銀行や投資家に伝えたい。
- 上場企業の人的資本経営の研修の内容としてこれを有価証券報告書で開示して、投資家の信頼を勝ち取りたい。
- 東証の求める「資本コストと株価を意識した経営」を社員レベルから強化したい。

社員が思わずワクワクして自主的に使いたくなるJPRオリジナル
企業価値の算出支援エクセルシート

「GCC 9 BOX™」

下記は実際の顧客の事例



社員が記入する定性的情報はわずか「原稿用紙 3 ページ」の文章 + インputはたった主に「4 つの数字」 = 仕事や事業の価値が分かりやすくビジュアルに瞬時に正確に自動生成 & 計算

3時間の研修でワクワクする書き方を伝授 / 3時間の研修でワクワクしながら数字を作る方法を伝授

Growth: 「日本を前進させる」

価値観・世界観	提供価値・成長性	売上高
安全で信頼性の高いデジタル社会	スマートシティの高成長を享受	10年のAGR23.9%
2025.2	2025.2	72億円 → 1600億円

716億円

Connection: 高度なテクノロジーとパートナー戦略

戦略	ビジネスモデル	目標の資本収益性
高度なテクノロジーパートナー戦略	利便性・満足度・安全性・他事性向上	27.7%ポイント改善が期待
2025.2	2025.2	4.0% → 32.4%

5.0% → 28.0%

74.4% > 42.6%

超過利潤価値 -13億円

Confidence: 財務安定性の向上・社会の持続性貢献が本格化

財務的な持続可能性	持続可能性への貢献	最低達成すべき資本収益性
デジタルリスク領域で安定基盤確立へ	社会を安全に前進	現状維持
2025.2	2025.2	6.3%

株主資本 26億円

あなたの事業の企業価値

時価総額 49 / 時価総額の最大アップサイド = **14.8倍**

10年成長シナリオを最大限反映した株主価値

株主資本26+超過利潤価値-13+成長価値716 = **729**

株主資本	超過利潤	成長価値
26	-13	716

アツサイト増分シナリオ = 12,000万円 / 0.12円 = 100,000株 (【中略】)

10年財務モデル

年次	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
売上高	72	1600
営業利益
株主資本	26

金融・投資のプロが喜びが欲しい情報を自動計算

完全自動生成計算

1 ページ目 Input / 2 ページ目 Output

定性的なストーリーを価値の3要素で分類し定量的情報と結びつける / 10年の長期的な企業価値が詳細に計算

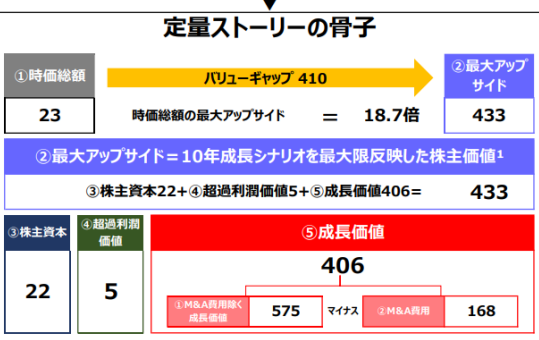
証券アナリストレポートへの応用

1. インベストメントサマリー

株主価値分析	超過利潤法による試算 成長シナリオの実現次第で最大アップサイド18.7倍
時価総額の最大アップサイドは18.7倍と試算	JPRは、メイホーの事業展開に関する将来性を踏まえて、GCC経営™のフレームワークにより「超過利潤法（「巻末資料2」参照）」で株主価値を試算した。定性・定量ストーリーの骨子と試算結果を可視化したものが以下の図表である。前提の条件については次ページ以降で解説する。

株主価値の分析（億円）

定性ストーリーの骨子	
Growth: 300社をM&Aし、対象企業の社員の幸せを追求	
Connection: 中小企業の経営を支援するプラットフォーム	
Confidence: 中小企業が集まり、協働・成長し、地域社会を共に支える	



株主価値推計のために設定した3つの定性情報と定量情報の前提*1（単位：億円）

Growth: 300社をM&Aし、対象企業の社員の幸せを追求		
価値観・世界観	提供価値・成長性	売上高
中小企業の支援で未来を変える メイホーは従業員10名の企業から上場企業へと成長した経験に基づき、中小企業のM&Aを通じて中小企業の活性化と地域の発展に貢献し、社員の幸せを追求している。自身の経験に基づいた課題意識と目指す姿が説得力を持つ。メイホーは中小企業の経営力を向上させるために上場企業の出資とネットワークを活用し、日本の閉塞感を打破しよとしている。	300社のM&Aを目指す メイホーはM&Aを通じて中小企業の成長と社会課題解決に取り組んでいる。事業ポートフォリオは建設、建設関連、人材、介護で、地域の優れた企業も対象にする。経営改善と雇用の安定により地域創生を推進し、長期的に300社のグループを目指している。2023年の業績は好調、国内18社とカンボジアに1社展開し、M&Aの加速も予想されている。M&A候補は全国に多数あり、長期的には、300社M&Aは十分に達成可能である。	CAGR29.0%が期待 FY2023.6 FY2033.6 73 ▶ 962 保守的に2033年6月期までに200社員収める前提
成長価値		
406		

Connection: 中小企業の経営を支援するプラットフォーム		
戦略	ビジネスモデル	ROIC
M&Aした中小企業の力を高める メイホーは中小企業の成長と株主価値の増大を追求し、買収企業と協力して規模拡大を実現する。買収により地域成長と他地域の参入が可能となり、グループの拡大により競争力と参加インセンティブが高まる。メイホーは中小企業のプラットフォームを創出し、相互に協力を高める好循環を目指す。中小企業はメイホー参画で営業利益率が2-5%改善する。	中小企業支援プラットフォーム メイホーは2つのプラットフォームで構成され、事業プラットフォームでは4分野の中核株式会社を配置し、子会社を支援。メイホーHDは管理部門を担当。実績のある企業に限定してM&Aを行い、ブランド力や顧客基盤などを重視。のれんは最小限で償却し、営業利益が向上。中小企業が集まり協働することで共に成長。のれん償却後の企業が優良資産となり、利益貢献と安定性が期待される。	2.9ポイント改善が期待 FY2023.6 FY2033.6 8.5% ▶ 11.4% M&A費用がかさむが、費用を入れても営業ROICは改善
超過利潤価値		
5		

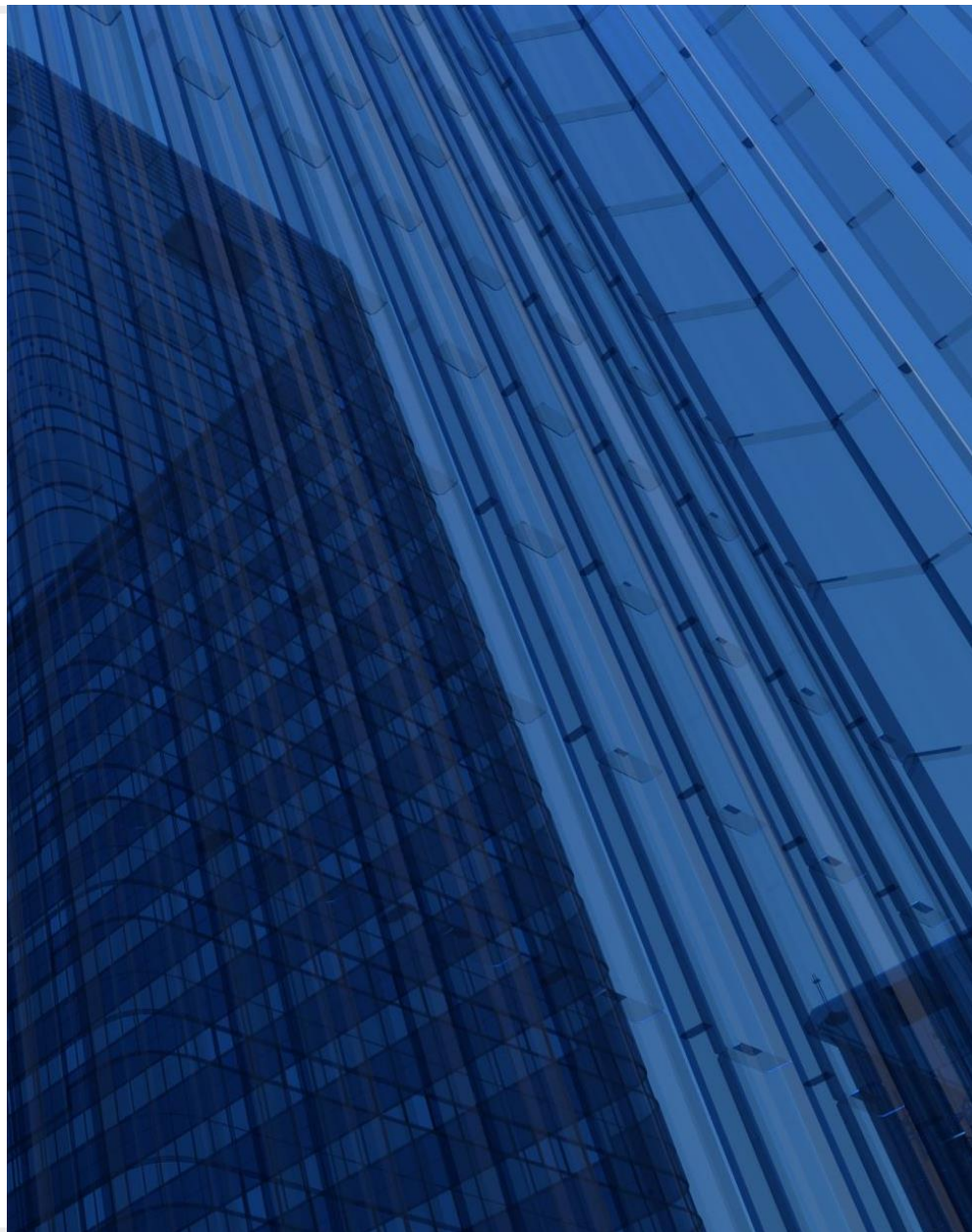
Confidence: 中小企業が集まり、協働・成長し、地域社会を共に支える		
財務的な持続可能性	社会の持続可能性への貢献	WACC
規模がまだ小さい点はマイナス メイホーのM&Aにより、成長した企業は規模拡大による安定化効果を得る。中小企業はグループの信用度により資金調達が容易なる。M&A後の企業の業績改善は財務の安定性に寄与する。自己資本比率は41.7%でD/Eレシオは0.43倍と財務安定性は高い。ただし、まだ規模が小さい点は財務安定性の評価としてはマイナス。	地域を支える企業発展を促進 メイホーの理念は、従業員の幸福と雇用創出を通じて地域に貢献し、企業の持続的発展を促進すること。中小企業の事業承継課題が地域を脅かしており、メイホーはM&Aによって事業継承を安定化させ、大型案件やグループ企業のシナジーを通じて社会的貢献を実現している。	現状維持 7.16% 規模の大きさに伴う安定が見えて現状より低くなるのが想定されるが保守的に現状維持とした
株主資本		
22		



発表後メイホーホールディングス(7369) 4日連続ストップ高

02.

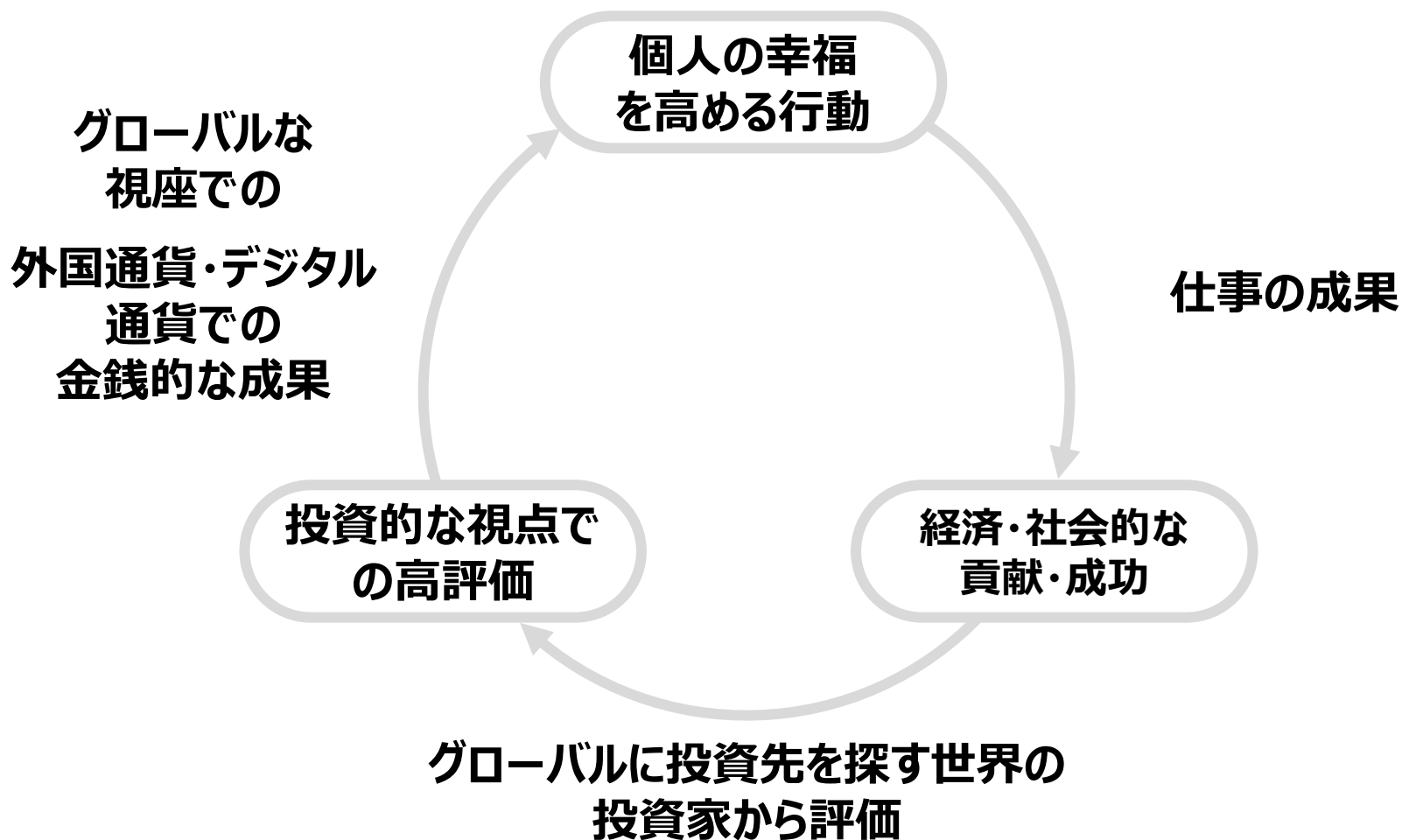
GCC 9 BOX™ **の意義**



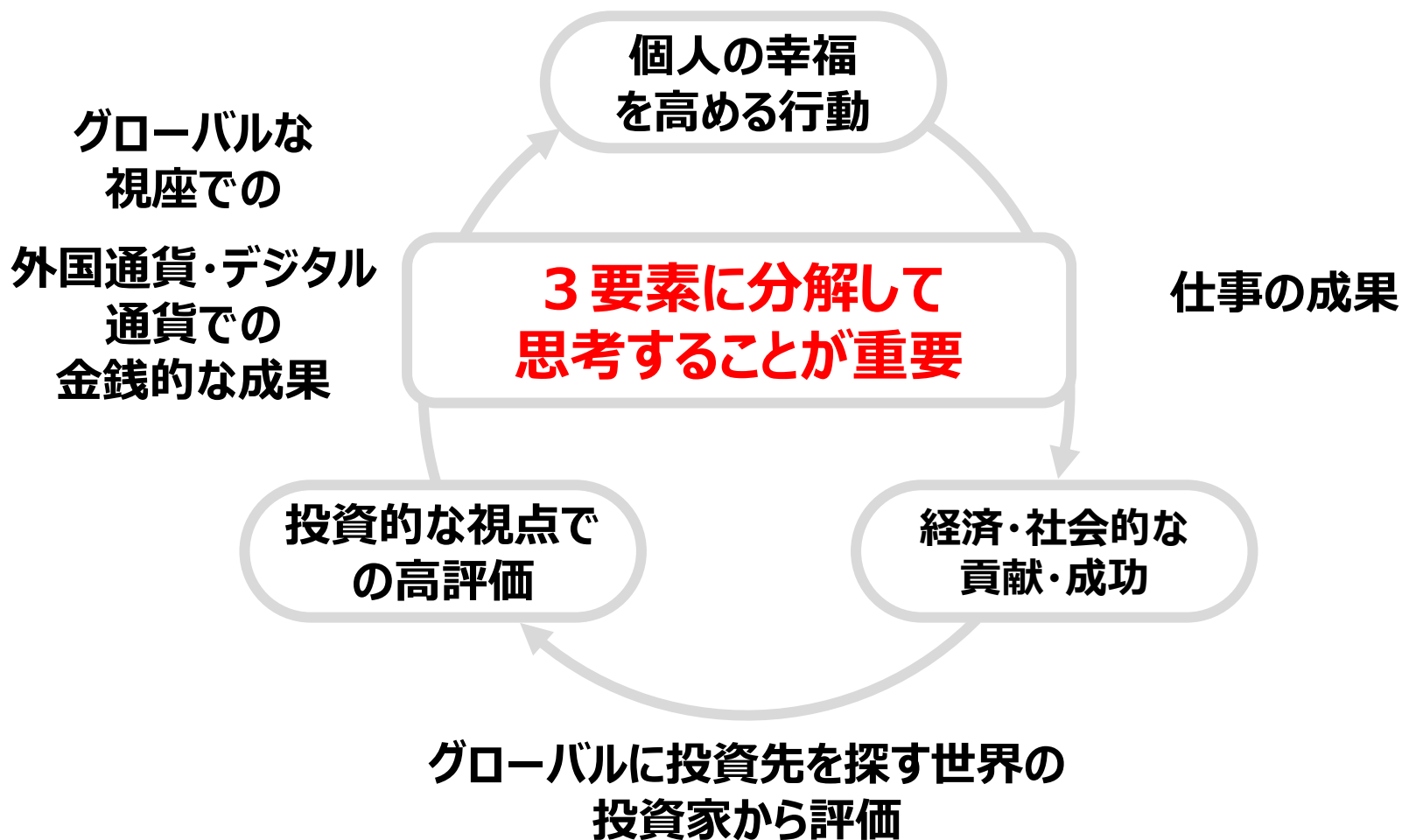
仕事も人生も幸せになる好循環



仕事も人生も、**もっと**幸せになる好循環



仕事も人生も、**もっと**幸せになる好循環



仕事も人生も、**もっと**幸せになる好循環

自己超越・自己実現欲求の充足

生理的欲求・安全欲求
の充足

個人の幸福
を高める行動

尊厳欲求・社会的欲求
の充足

投資的な視点で
の高評価

経済・社会的な
貢献・成功

仕事も人生も、**もっと**幸せになる好循環

自己超越・自己実現欲求の充足

生理的欲求・安全欲求
の充足

個人の幸福
を高める行動

尊厳欲求・社会的欲求
の充足

成長への貢献

投資的な視点で
の高評価

経済・社会的な
貢献・成功

資源・資本の
つながりへの貢献

信頼・安心への貢献

仕事も人生も、**もっと**幸せになる好循環

自己超越・自己実現欲求の充足

生理的欲求・安全欲求
の充足

個人の幸福
を高める行動

尊厳欲求・社会的欲求
の充足

成長の評価指標

成長への貢献

つながりの評価指標

投資的な視点で
の高評価

経済・社会的な
貢献・成功

資源・資本の
つながりへの貢献

信頼の評価指標

信頼・安心への貢献

経済・社会的な成功と投資の世界のつながりを勉強することでより幸せな人生へ

仕事も人生も、**もっと**幸せになる好循環

自己超越・自己実現欲求の充足

生理的欲求・安全欲求
の充足

個人の幸福
を高める行動

尊厳欲求・社会的欲求
の充足

成長の評価指標
売上高

成長への貢献

つながりの評価指標
資本収益性

投資的な視点で
の高評価

経済・社会的な
貢献・成功

資源・資本の
つながりへの貢献

信頼の評価指標
資本コスト

信頼・安心への貢献

経済・社会的な成功と投資の世界のつながりを勉強することでより幸せな人生へ

仕事も人生も、もっと幸せになる好循環

自己超越・自己実現欲求の充足

日常的な視点でもグローバルな視点でも
仕事も人生も、もっと幸せになる好循環
育む思考ツール

3要素ですべてのつながりを高い解像度で可視化
する思考支援ツール

GCC経営システム™

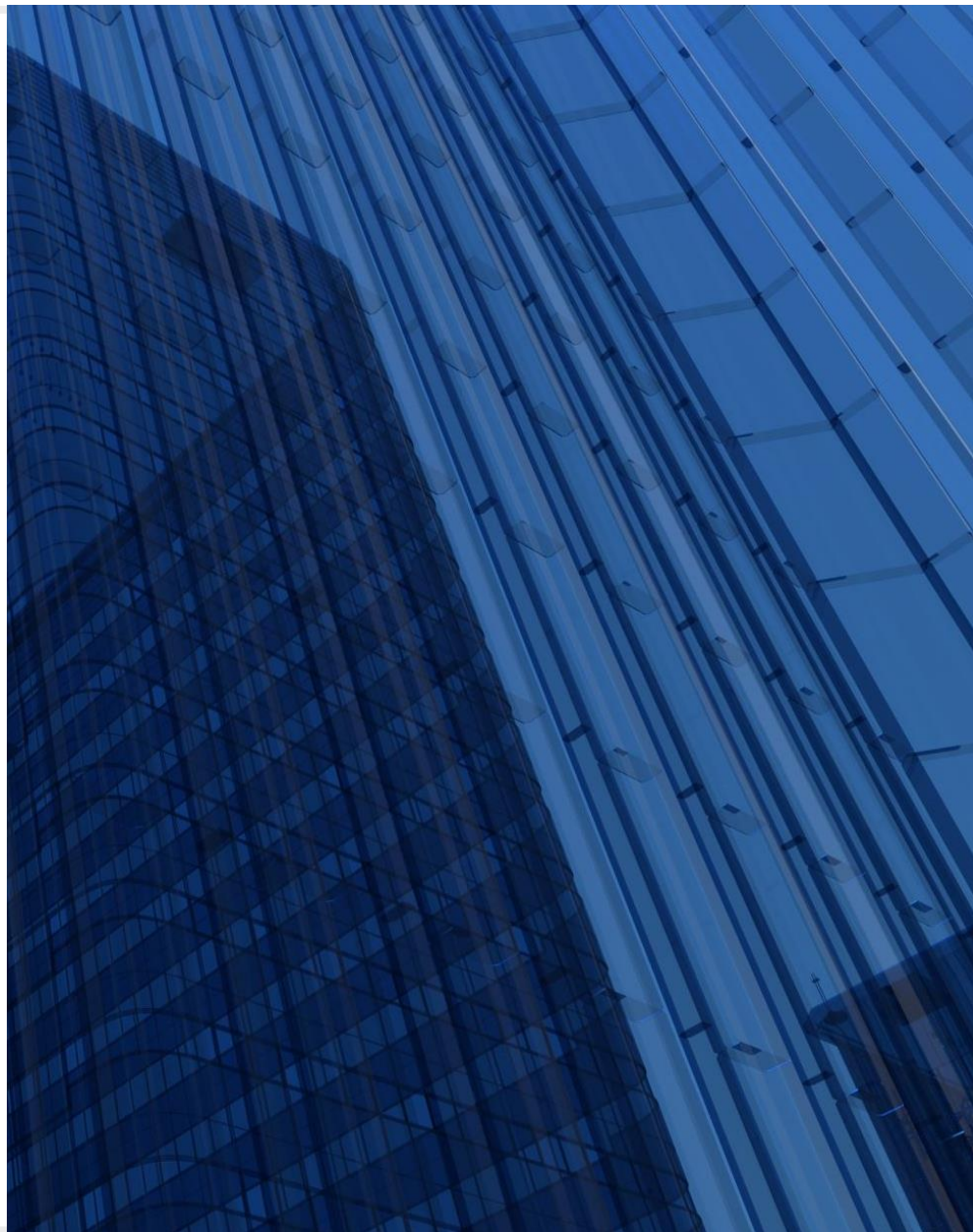
そのエッセンスを **3** 時間で習得するためのエクセルツール

GCC 9 BOX™

投資家から評価

03.

GCCによる 成功事例



2146 UTグループ社の例①

日本最大級の 製造派遣企業

JPR代表が2013～2016年まで
役員兼任

GCCの視点で

安心・つながり・成長
戦略を確立

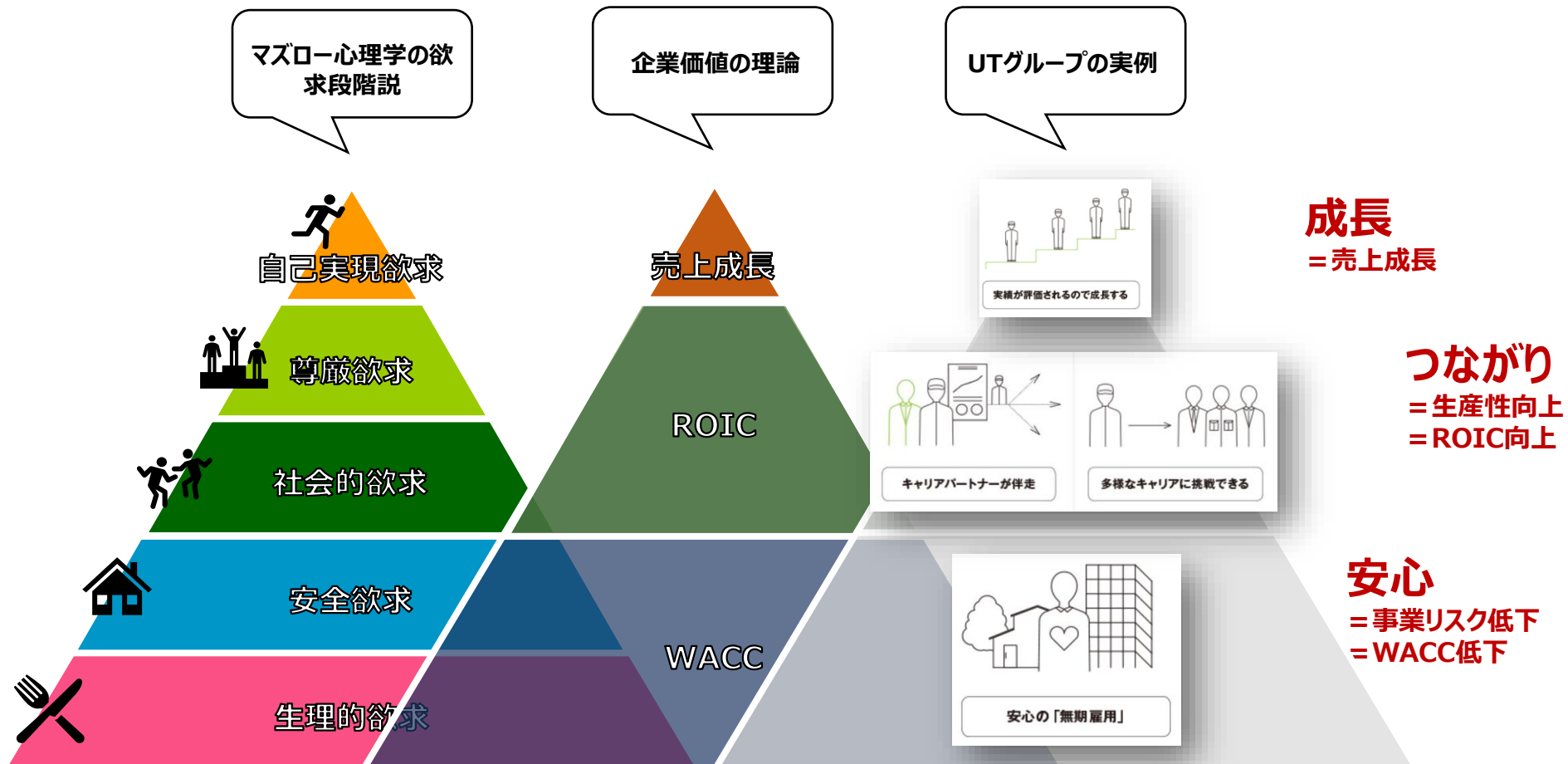
長期経営ビジョン

UT VISION2030 より抜粋



https://www.ut-g.co.jp/assets/img/ir/management/strategy/ut_2030.pdf

2146 UTグループ社の例②



2146 UTグループ社の例③

UTグループの戦略の根幹はGCC 成長・つながり・安心

キャリアプラットフォーム

安心のしくみ

- ・正社員雇用 ————— 全社員を原則的に正社員として採用
- ・住環境の整備 ————— 社宅整備、勤務送迎、初期費用貸付制度など
- ・健康の維持 ————— 専任栄養士のメニューサポート、給食サービスなど
- ・余暇を楽しむ ————— クルマなどシェアリング型の各種レンタルなど
- ・資産を形成する ————— 社員持株会型ESOPなど
- ・ほか、上場企業としての各種福利厚生サービス

つながりのしくみ

- ・チーム派遣 ————— リーダーのいる30名以上のチームで働く
- ・職場体験VR ————— 職場を事前に疑似体験できる機能
- ・UTグループコミュニケーションアプリ
 - 社内外情報・就職情報の配信
 - 各種制度・サービスへのエントリー機能
 - 各種サークル、コミュニティ支援
 - 経験者への個別相談支援
 - ……………など
- ・地域との連携
- ・プラットフォーム機能の社外への提供

成長のしくみ

多彩なキャリアパス

- ・jobグレード制度 ————— 働く現場での適正な評価と昇級制度
- ・jobチェンジ制度 ————— UTグループ内配置転換・転職制度
- ・One UT ————— UTグループ内他社への転籍制度
- ・UTエントリー制度 ————— 本社一般職、役職ポストへの立候補制度
- ・Next UT ————— 派遣先企業への転籍支援制度

キャリアアップのサポート

- ・就業基礎力研修 ————— 入社時研修
- ・技能・知識の学習 ————— OJT、社内教育・研修
- ・各種資格・免許の取得 ————— 社内外の教育・研修
- ・エンジニア研修 ————— UTグループ教育・研修施設UTACCほか
- ・e-ラーニングを活用した独自の教育プログラム
- ・自己投資ローン ————— 学習資金などの融資制度
- ・キャリアパートナー制度 ————— 資格をもつ先輩社員による個別相談

出所) UTグループ株式会社「モノづくりの現場での、派遣という働き方白書」2018年

<https://www.ut-g.co.jp/corporate/b0621d0000003vep-att/hatarakikatahakusyo.pdf>

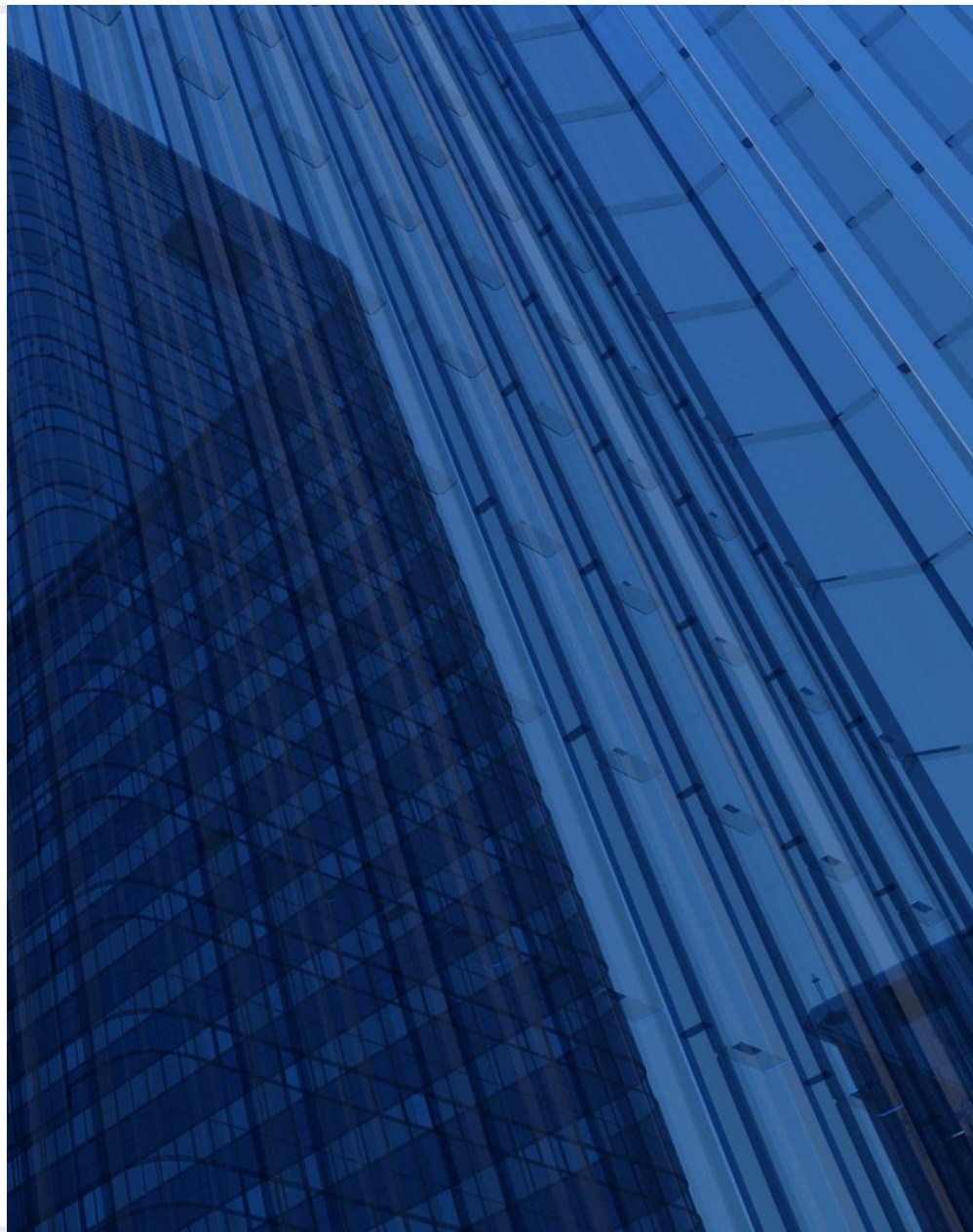
2146 UTグループ社の株価

企業価値の展望レポート開示



04.

JPRとは？



会社概要

名称	ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社
英語表記	J-Phoenix Research Inc.
所在地	〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目2番9号 日比谷セントラルビル14階
電話番号	03-5532-7647
設立日	2003年5月2日
資本金	10,000,000円
代表取締役	宮下 修

代表者の紹介



ジェイ・フェニックス・リサーチ株式会社
代表取締役 宮下 修



学歴/資格

- 1989：早稲田大学政治経済学部経済学科卒業（ドイツ・ボン大学・法経学部1年留学）
- 1993：ロンドン大学CITY校 Bayes Business School, MBA in Finance
- 1994：ドイツ・コンスタンツ大学経済統計学部修士
- 1992：日本証券アナリスト協会 検定会員
- 1997：米国CFA協会 認定証券アナリスト
- 2021：日本ディープリング協会 E資格

履歴

- 1989：野村総合研究所入社。財務アドバイザー業務等の調査に従事
- 1999：企業価値の理論で、ノーベル経済学賞を受賞したモジリアーニ教授、ミラー教授のフレームワーク（物理学で言えばニュートン力学的理論）を活用する、モジリアーニ教授、ミラー教授の弟子が創業した米国コンサルティング会社、スターンシュワート社の東京支店入社（日本人初）
- 2001：メリルリンチ証券会社入社。投資銀行部門にて、M&A、株式引受、財務アドバイザー業務、格付けアドバイス、IRコンサルティング業務等に従事
- 2004：AIGコーポレート・ソリューションズ・インクに入社。大企業向け保険営業従事
- 2005：取締役パートナーとしてジェイフェニックスリサーチ入社。（2009年代表取締役）
- 2013：2016年まで日本最大の製造派遣、UTグループ2146の事業開発部門長として上席執行役員を兼務（後述のGCC経営システム™を体系化）
- 2019：2019年に、ITと企業価値の総合アドバイス体系の構築のために東証プライム(株)スカラ4845とジェイフェニックスリサーチが事業統合。スカラの最高戦略責任者兼務
- 2023：スカラからジェイフェニックスリサーチの株100%を買い戻して完全独立

趣味

登山、旅行、美術館巡り、哲学書読書、筋トレ、ゴルフ、クラシックギター

事業の特色

運営者・事業内容は？

- 日米最大級の投資銀行出身者が運営、創業20年
- **マッキンゼー社と類似のノウハウを活用（背景は次ページで説明）**
- 証券アナリストレポートの提供、中計・統合報告書の作成支援

特徴・効果は？

- ROIC/WACCを駆使した定量・定性的かつ体系的な説明
➔ **独自体系としてGCC経営システム™のフレームワーク活用**
- 金融庁が求める企業価値の持続的向上ストーリーの開示への対応
- 毎月3,800社のROIC/WACCのデータ分析による裏付け
- 理論的かつ分かり易い③要素の説明による認知度上昇・ストップ高等、株価への波及（「乾いた薪」「疑似中計」理論）
- 企業が資金負担するレポートで「ストップ高」になるのはJPRならではの現象
- 経営幹部に対する「株主価値エグゼクティブコーチング」

実績は？

- 花王様に株主価値経営システムを導入を支援
- PPIHD（旧ドン・キホーテ）様の統合報告書作成を支援
- UTグループの株価10倍に貢献、その他多数実績
- 中小型株を中心に、証券アナリストレポート発行・開示実績200以上

ROIC/WACCの経営システムの世界標準の教科書

McKinsey Valuation

<https://www.amazon.co.jp/Valuation-Measuring-Managing-Companies-University-ebook/dp/B0892VPMX7>

筆頭執筆者と経歴

Before joining McKinsey, Tim was a vice president at Stern Stewart & Company, a leading value-based management-advisory firm, where he helped develop key financial-analytical tools and software. He has also lectured at business schools, such as the University of Chicago, Northwestern, Tuck, Yale, and INSEAD.

Tim serves as chairman of the board of Pathways to College and is a trustee of Hampshire College.

<https://www.mckinsey.com/our-people/tim-koller>

モジリアーニ教授、ミラー教授の教え子、スターン、スチュワートが創設した、JPR代表の宮下も所属していたStern Stewart & Co.の出身者が筆頭執筆者

CFA協会もGCC経営システム™を高く評価

CFA証券アナリスト主催 グローバル大学対抗戦の日本大会
で宮下が監督を務めたチームが日本大会で優勝

『CFA協会リサーチ・チャレンジ2023-2024』 筑波大学大学院と立命館大学が優勝、
アジア太平洋小地区大会へ進出 = 宮下は筑波大大学院チームの監督をつとめる（写真奥右から3番目）



<https://www.atpress.ne.jp/news/378824>

審査員の多くは日経統合報告書アワードの審査員を兼任しています。
彼らはGCC経営システム™の視点を高く評価しています。

すべてのステーク ホルダーを幸せに

理論的かつシンプルな可視化で
投資家と企業・他のステークホルダーが
分かり合える世界へ